西日本インカレ（合同研究会）2015　専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）　オオサカケイザイダイガク	フリガナ）　ケイザイガクブ	フリガナ）　ハットリゼミナール
大阪経済大学	経済学部	服部ゼミナール

※申込書に記入したチーム名から変更する場合は、新旧両方の名称を記入してください。
※企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ）チームハットリクンサンカイセイ	フリガナ）オカザキ　ミドリ	７名
チームハットリ君３回生	岡﨑　緑	

研究テーマ（発表タイトル）
「一人」と「おおぜい」あなたはどちらを救いますか。～援助心理の非合理性～

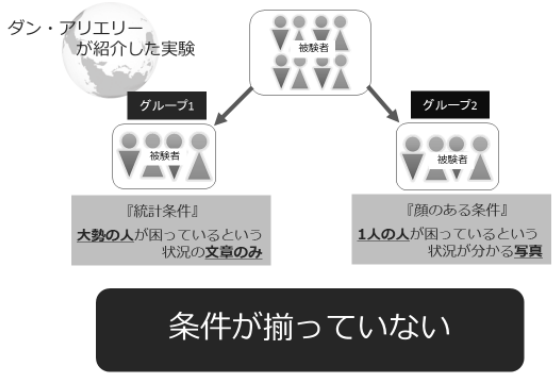
※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

１．研究概要（目的・狙いなど）

「困っている人を救いたい」という援助心理には、ある有名な非合理性があることが、過去の研究により明らかになっています。それは、「犠牲者特定効果」と呼ばれる「人はおおぜいの苦しみより、一人の苦しみの方に心を動かされるようにできている。」というものです。私たちは、先行研究よりも、適切に環境をコントロールしたランダム化比較試験（ＲＣＴ）を行うことで、この「犠牲者特定効果」の真偽を確かめます。さらに現実的な問題を題材にした実験も追加的に行い、この問題が社会的に及ぼす影響を調査します。

２．研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

米国デューク大学の有名な行動経済学者「ダン・アリエリー」は、人間の援助心理に潜む非合理性「犠牲者特定効果」を唱えています。しかし、この効果の根拠となっている実験は、「貧困に苦しむ女の子の写真」を見た被験者と「貧困の現状を記した文章」を見た被験者との寄付意思額を比較するという、曖昧なやり方で行われました。



３．研究テーマの課題

私たちは、この米国で行われた先行実験の「曖昧な実験方法」に対して、より適切に環境をコントロールしたランダム化比較試験（ＲＣＴ）を本学の学生を対象に行いました。そして、「犠牲者特定効果」の真偽を確かめることに挑戦しました。

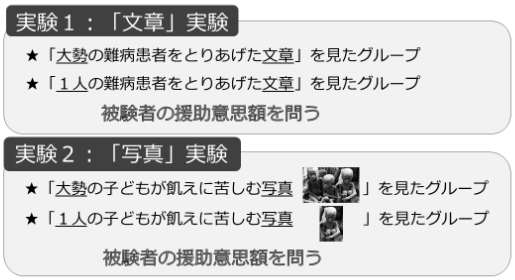
4．課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは、ランダム化比較試験（無記名・記入式・二十盲検法）と呼ばれる、医学の世界では標準的となっている信頼のおける実験手法を用いて、「犠牲者特定効果」についての 3 種類の実験を、本学の学生を被験者として行いました。

5．研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

一つ目の実験は『文章実験』と名づけた実験です。まず、被験者をランダムに二つのグループに分け、一方には「おおぜいの難病患者をとりあげた文章」、もう一方には「一人の難病患者をとりあげた文章」をそれぞれアンケート用紙に記載して見せます。そして両グループ共に援助寄付額を問う実験です。二つ目の実験は『写真実験』と名付けた実験です。こちらも『文章実験』と同様に被験者をランダムに二つのグループに分け、一方には「おおぜいの子どもが飢えに苦しむ写真＋それを説明する文章」、もう一方には「一人の子どもが飢えに苦しむ写真＋それを説明する文章」をそれぞれアンケート用紙に記載して見せます。そして、両グループ共に援助寄付額を問う実験です。この二つの実験を別々に行うことで、先行研究の曖昧さを解決することができます。さらに三つ目の実験として、現在、大きな問題となっているシリア内戦を発端とした難民・移民問題という時事問題を取り上げ、被験者に「日本の難民問題への姿勢」を問う実験を行いました。また、実験結果を活用し、実際にある募金サイトのアクセス数を増やすための広告を作成しました。

『条件を揃えた2種類のRTC』



6．結果や今後の取り組み

実験は現在（11 月 13 日時点）でも進行中であり、「犠牲者特定効果」が、より適切な条件の下で行った実験においても成立するのか、について現在データの整理・解析を進めています。本研究の結果は、重要な社会的意義を持っていると考えます。支援が必要な問題を、どのように報道することで、我々の援助心理を高めることができるのか、という問題を考える上で、特に重要だと考えます。

7．参考文献

★ ダン・アリエリー　著、　櫻井　祐子　訳
『不合理だからすべてがうまくいく行動経済学で「人を動かす」』早川書房　2010 年

★ Jenni,K.,&Loewenstein,G.(1997).Explaining the identifiable victim effect.Journal of Risk and Uncertainty, 14(3), 235-157.

★ Kogut,T.,&Ribot,I.(2005).The"Identified Victime"Effect: An Identified Group, or Just a Single Individual? . Journal of Behavioral Decision Making, 18(3), 157.

西日本インカレ事務局への連絡事項

特になし

＜企画シート作成上の注意＞

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。
※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までを渡します。
※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「西日本インカレ事務局への連絡事項」に記入してください。なお、本企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。